

## Ⅲ. ヨーロッパ (NIS 諸国を含む)

### フィンランド

#### 主要データ

国名(英名)	フィンランド共和国 [Republic of Finland]
面積(km <sup>2</sup> )	338, 145
海岸線延長(km)	1, 250
人口(百万人)	5. 3
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	15. 5
GDP(百万 US\$)	271, 867
一人当り GDP(US\$)	51, 588
一人当り銅使用量(kg/人)	11. 5
主要鉱産物：鉱石(千 t)	銅:13. 3、亜鉛:27. 8、ニッケル:6. 2、金:6. 2(t)、銀:50. 9(t)、クロム:614
主要鉱産物：地金(千 t)	銅:126. 0、亜鉛:297. 7、ニッケル:51. 1、コバルト:8, 950(t)
鉱業管轄官庁	雇用経済産業省(Ministry of Employment and The Economy、2008 年設立)
鉱業関連政府機関	フィンランド地質調査所(Geological Survey of Finland : GTK)
鉱業法	- The Mining Act ( <i>Kaivoslaki</i> 503/65) - The Mining Decree ( <i>Kaivosasetus</i> 663/65) - Amendments to the Mining Law (1427/92, 1625/92, 474/94, 1571/94, 208/95, 561/95 and 1076/95)
ロイヤルティ	無
外資法	地域政策、事業資金支援
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	自然保護区での探鉱は制限されている。
鉱業公社	-
鉱業活動中の民間企業	Outokumpu、Inmet Mining、Talvivaara Mining 等
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	外国企業からのフィンランドにおけるウラン探鉱のライセンス申請が増加する一方、地元の環境 NGO 等によるロビーイングや地域コミュニティによる反対活動が懸念されている。例えば、過去のケースでは、探鉱ライセンスの期間及び鉱区の制限が見られる。
2008 年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2008 年 10 月、大規模な Talvivaara ニッケル鉱山が生産を開始。</li> <li>・ Belvedere(本社 : Toronto) は 2008 年 12 月、経営悪化が原因で Hiruta/Särkiniemi ニッケル鉱山を休山。</li> <li>・ 金属価格の低迷により、多くのベースメタル及びウラン探鉱が停滞。但し、Länttä リチウム探鉱プロジェクトや金探鉱は順調。</li> <li>・ 政府は、2009 年後半に新鉱業法を検討すると発表。</li> </ul>

## 1. 鉱業一般概況

### (1) 生産概況

フィンランドの代表的な鉱産物は、ベースメタルに加えて、コバルト、クロム、ニッケルである。WBMS の統計によると、2008 年における同国のコバルト地金生産は 8,950t(前年比 1.6%減)と、中国に次いで世界第 2 位、クロムの鉱石生産量は世界第 8 位の 614 千 t(前年比 10%増)、そしてニッケル地金生産量は世界第 7 位の 51.1 千 t(前年比 7.1%減)と依然として堅調な金属生産を継続した。さらに、欧州最大のニッケル鉱床として開発されている Talvivaara プロジェクトが、2008 年 10 月に操業を開始。よって、2008 年 12 月の Hiruta 及び Särkiniemi 鉱山の休山発表に拘らず、今後も更なるニッケル増産が予想されている。なお、金に関しては、Orivesi 鉱山に加えて、Pahtavaara 及び Kittila 鉱山が 2008 年後半に生産を開始し、今後も金の増産が予想されている。

### (2) 探鉱概況

フィンランドの探鉱投資の魅力は、①多くのベースメタル鉱床を胚胎する欧州最大の先カンブリア紀フェノスカンジア楕状地が存在すること、②GTK の地質データが充実していること、③電気設備や鉄道などのインフラ設備が十分に整っていること、④経済及び政権が安定していることである。長年、同国鉱業の中心であった Outokumpu 社がステンレス製造及び冶金技術へと特化したことによって、多くの鉱業資産を売却したため、現在も多くの外資企業が探鉱権を継承している。2009 年 2 月の GTK 発表によれば、進行中の探鉱プロジェクトは全 43 件で、28 社が活動を行っている(内訳：金 16 件、PGM 1 件、

(鉱業法のサイト：<http://www.gsf.fi/info/ejl6extr.html>  
<http://en.gtk.fi/ExplorationFinland/MiningLegislation/finmining>)

### (2) 国家からの投資制度

同国には、国営企業の売却収入を原資として設立された国営の産業投資会社 Finnish Industry Investment Ltd. (FII)があり、鉱業を含む開発案件への出資制度を設けている。FII が出資できる案件は FS 調査以降のものに限られ、初期探鉱案件は対象外である。2007 年には、

ベースメタル 11 件、ダイヤモンド 3 件、銀 1、ウラン 3 件、その他の工業用鉱物)。現状は 2008 年下期からの経済不況及び金属価格の低迷により、探鉱権は登録されていても、金探鉱以外は休止しているケースが多い。しかし、リチウムに関しては、世界の需要増の期待から、Länttä プロジェクトが進められて、2008 年春に鉱山建設を開始し、2010 年初期に 4 千 t/年の酸化リチウム生産の開始を予定している。なお、フィンランドのウラン探鉱に関しては、20 年近くも休止状態となっていたが、2004 年以降にウラン価格高騰により探鉱が再開した。しかし、自然環境保護区でのウラン探鉱は地元の環境 NGO 等によるロビーイングや地域コミュニティによる反対活動があると制限され、探鉱権取得は依然難しい。2008 年はウラン探鉱が 11 件で、2009 年 2 月には 3 件が登録されているが、GTK によれば、実質上、2009 年以降はウラン価格の低迷が原因で、ウラン探鉱は全て停滞している。

## 2. 鉱業政策の主な動き

### (1) 鉱業法の改正案

現行の鉱業法は 1965 年に制定された鉱業法(The Mining Act (*Kaivoslaki* 503/65))であるが、フィンランド政府は、2009 年 6 月に新鉱業法の制定を検討すると発表した。草案を 2009 年 9 月に策定し、遅くとも 2011 年 1 月 1 日までに施行する予定である。なお、本草案の内容は公開されていないが、業界紙によれば、新鉱業法では、新鉱山にて必要となるインフラ設備建設への助成金制度を検討している。また、新鉱業法でも、地方政府は、自治体のなかでウラン探鉱の提案を阻止する権利を保持することとなる。

FII 全体の直接投資(23.1 百万€)の 65%が鉱業分野に投資され、鉱業関連企業の 2 社(Scandinavian Minerals[9.9 百万€]、Talvivaara Resources[5 百万€])に出資が行われたが、2008 年は経済不況のために FII の資金枠が縮小され、2008 年末に市場で売却した。なお、FII は、欧州では唯一の国営投資会社を通

じて民間企業に投資する制度であるが、フィンランドでは鉱業全般または鉱業投資への税制面の優遇措置は無い。

### 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

表 1. 主要非鉄金属の生産量・消費量

(単位：千 t)

	鉱山生産量		地金生産量		地金消費量	
	2007年	2008年	2007年	2008年	2007年	2008年
銅	13.6	13.3	109.8	126.0	79.7	60.6
鉛	-	-	-	-	1.4	3.0
亜鉛	38.9	27.8	305.5	297.7	48.3	43.6
ニッケル	3.5	6.2	55.0	51.1	40.4	41.0
金(t)	6.2	6.2	-	-	-	-
銀(t)	50.9	50.9	-	-	-	-
コバルト(t)	-	-	9,100	8,950	-	-
クロム	556.0	614.0	-	-	-	-

(※注：クロムはクロム鉄鉱精鉱量)

(出典：World Metals Statistics Yearbook2009)

表 2. フィンランド対主要国別ニッケル鉱石及び精鉱/地金に関する貿易

(単位：t)

ニッケル鉱石及び精鉱の輸入量			ニッケル地金 <sup>※1</sup> の輸入量			ニッケル地金 <sup>※1</sup> の輸出量		
	2007年	2008年		2007年	2008年		2007年	2008年
豪州	173,793	221,519	豪州	1,420	1,940	スウェーデン	9,995	10,736
ボツワナ	4,237	-	オランダ	-	548	台湾	6,016	5,100
カナダ	66,908	53,555	ロシア	14,004	15,391	中国	3,802	3,946
ドイツ	609	0	その他	54	326	オランダ	2,332	3,269
ルウェー	5,691	8,642				ベルギー	2,400	3,106
ロシア	-	5,873				米国	3,087	2,405
その他	-	-				その他	15,772	13,406
合計	251,239	289,588	合計	15,478	18,205	合計	43,354	41,968

※1：Class I

(出典：INSG World Nickel Statistics - July 2009)

#### 4. 鉱山・製錬所状況

##### (1) 操業中の鉱山

###### ① Talvivaara 鉱山(Ni)

###### ■沿革

Talvivaara プロジェクトは、欧州最大のニッケル硫化鉱体として知られ、同鉱床では、ニッケルのほかに、銅、亜鉛、コバルトが副産物として確認されている。1977～1983年のフィンランド地質調査所が同地区にて探鉱を実施。1986年に Outokumpu 社が最初の探鉱権を獲得したが、2004年2月には Talvivaara Mining 社(LSE 上場、本社: Finland)が継承した。

###### ■動向

- ・ 2008年10月1日、ニッケルの初期生産を開始。2009年2月19日には、同国南西部の Norilsk Nickel が有する Harjavalta 精製所へ硫化ニッケル鉱の供給を開始した。2009年は選鉱技術を向上させ、2012年までにフル生産能力(ニッケル 33 千 t、亜鉛 60 千 t)に達成することを目標としている。(なお、2009年6月には、50～55 百万€の追加投資でニッケル生産 50 千 t/年に増強する予定と発表。)
- ・ Talvivaara 社は 2008年6月、Outokumpu 社と同鉱山からのマンガン生産における共同 FS を締結し、露天掘により採掘した低品位鉱から、新技術のバイオリーチングによる金属回収技術を利用して、年産 30 千 t で金属マンガンまたは酸化マンガンの生産が可能であるかを調査中である。
- ・ 欧州最大のニッケルプロジェクトとして、2007年は FII(2-(2)を参照)からの出資 5 百万€を受け、2008年5月にはフィンランドのタルヤ・ハネロン大統領が現場を訪問している。2008年末、FII は全ての持ち株を市場に売却したが、Talvivaara 社は 2009年6月にも新株発行により、71.3 百万£の資金調達に成功している。なお、2009年の Capex は前年比約 80%減の 50～70 百万€を計上している。
- ・ 2008年12月4日、鉱物資源量(JORC 規程、カットオフ品位 Ni 0.07%)を前年比 76%増の 1,004 百万 t(Ni 2.2 百万 t、Zn 4.98 百万 t、Cu 1.27 百万 t、Co 201 千 t)に更新した。

表 3. フィンランドの主な操業鉱山

鉱山名	権益所有企業、 権益%	鉱種	2007年 生産量	2008年 生産量	08/07 増減率 (%)	備考
Hiruta (坑内採掘)	Belvedere Resources (本社： Vancouver) 100%	Ni <sup>※1</sup>	1,123t	1,654t <sup>※2</sup>	NA	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年12月、ニッケル価格の低迷により、休山を発表。</li> <li>確定及び推定鉱石埋蔵量は、2.35百万t(品位 Ni 0.62%、Cu 0.22%)</li> </ul>
		Cu <sup>※1</sup>	302t	445t <sup>※2</sup>	NA	
		Co <sup>※1</sup>	50t	72t <sup>※2</sup>	NA	
Särkiniemi (坑内採掘)	Belvedere Resources 100%	Ni <sup>※1</sup>	146t	386t <sup>※2</sup>	NA	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年12月、ニッケル価格の低迷により、休山を発表。</li> <li>予測鉱物資源量(2008年4月)は6万t(品位 Ni 0.86%)</li> </ul>
		Cu <sup>※1</sup>	41t	98t <sup>※2</sup>	NA	
		Co <sup>※1</sup>	7t	17t <sup>※2</sup>	NA	
Pyhäsalmi (坑内採掘)	Inmet Mining (本社： Toronto) 100%	Cu <sup>※1</sup>	13,600t	13,300t	-2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年、低品位亜鉛の採掘により、28.5%減産。鉱山周辺の探鉱を継続。</li> <li>確定鉱石埋蔵量(2008年3月時点)は、14.38百万t(品位 Cu 1.1%、Zn 2.3%)</li> </ul>
		Zn <sup>※1</sup>	38,900t	27,800t	-28.5	
Kemi (露天及び 坑内採掘)	Outokumpu (本社： Finland) 100%	クロム鉄 鉱精 鉱量	556,000t	614,000t	10.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>Kemi 鉱山隣接の Tornio 製錬所にてフェロクロムの生産を1967年に開始。</li> <li>2009年上期は Tornio 製錬所2系列の内1系列を閉鎖し、フェロクロム生産を50%減産予定。</li> <li>確定鉱石埋蔵量(2008年12月)は、37百万t(品位 Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 26%)</li> </ul>
		フェ ロ ク ロ ム	242,000t	234,000t	-3.3	
Talvivaara (露天採掘)	Talvivaara Mining(本社： Finland)88.9%、 Norilsk Nickel (本社： Moscow) 11.1%	Ni <sup>※1</sup>	-	16,500t <sup>※3</sup>	NA	2008年10月、初期生産を開始。フル生産能力は2012年为目标。
		Zn <sup>※1</sup>	-	37,500t <sup>※3</sup>	NA	
Orivesi (坑内採掘)	Dragon Mining (本社： Perth) 100%	Au	12,399oz	29,711oz	139.6	2007年Q2に生産開始。
Pahtavaara (露天/坑内 採掘)	Lapland Goldminers AB (本社： Sweden) 100%	Au	-	3,400oz <sup>※4</sup>	NA	2008年12月中旬に生産開始。
Kittila /Suurikuusikko (露天/坑内 採掘)	Agnico-Eagle Mines(本社： Toronto) 100%	Au	-	NA	NA	<ul style="list-style-type: none"> <li>Suurikuusikko 鉱床開発プロジェクトは欧州で最大規模。</li> <li>2008年9月、商業向けの生産を開始。2009年は金124,772ozを生産する計画。</li> </ul>

※1：精鉱中金属量、 ※2：2007年6月25日～2008年3月31日、  
 ※3：2009年の生産量(推定)、 ※4：2009年1月～5月の生産量(推定)  
 (出典：Mining Journal2009年2月発行「Finland」、MEG 及び各社ホームページ)

## (2) 探鉱プロジェクト

表 4. 主な探鉱プロジェクト(1)

プロジェクト(鉱種)	権益所有企業 (権益：%)	備考
Länttä(Li)	Nordic Mining ASA (本社：Norway) 100%  注)子会社である Keliber Resources Ltd Oy が操業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欧州最大のリチウム埋蔵が期待されており、11 つのリチウムペグマタイト鉱体が既に確認されている。1999 年 12 月より探鉱を再開。(60～70 年代にリチウム生産が計画されたが、当時の価格低迷により中止。)</li> <li>・ 2008 年春に鉱山建設を開始し、2010 年初期に年間 4 千 t の炭酸リチウムの他、副産物としてタンタルを生産予定。</li> <li>・ フィンランド地質調査所が計 5,500m のボーリングを実施。精測鉱物資源量(JORC 規程)は 170 万 t(リチウム純分)の他、予測及び概測資源量は 295 万 t の埋蔵量を計上。</li> <li>・ リチウム回収プロセスとしては、粉碎→磁選→摩鉱→浮選の後、湿式加圧浸出を計画。</li> </ul>
Solki(P, Nb)	Yara International ASA(本社：Norway)100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Yara 社は主に窒素肥料を取り扱っており、原料を確保するために 2008 年参画。</li> <li>・ 2015 年に生産開始予定。フィンランド運輸通信省は 2008 年 10 月、同鉱山からの輸送経路の調査書を公開。過去の予測鉱物資源量は 310 百万 t(品位 P10.5%、Nb 約 0.1%)。</li> </ul>
Mustavaara (Fe, Ti, V)	Adriana Resources (本社：Vancouver) 70% Akkerman Exploration B.V. (本社：Neitherlands)30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在は冶金試験を実施し、更なる探鉱を継続。</li> <li>・ Rautaruukki Oy 社は 1974～1985 年、年間 2,700t の五酸化バナジウムを生産。世界のバナジウム供給の約 10%を占めていた。</li> <li>・ 過去のデータによる資源量(NI43-101 規程)は、合計 30 百万 t(品位 Fe 16.8%、V 0.91% (V<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 1.62%))、鉱山寿命は 15 年を計画。</li> <li>・ 五酸化バナジウム 6,500t/年、磁鉄鉱 445 千 t/年を目標。</li> </ul>
Koillismaa-Näränkä /Kaukua (Ni, Cu, Au, Pt, Pd)	Nortec Ventures (本社：Vancouver) 70% Akkerman Exploration B.V. (本社：Neitherlands)30%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2008年9月、Nortec社が権益70%を獲得。同社が探鉱費及びFS調査に2.5百万€を出費すれば、さらに10%を取得する権利を有する。</li> <li>・ Arctic Platinum社の鉱床近く(西へ75km)で、探鉱を継続し、資源量の測定を目標としている。</li> </ul>
Arctic Platinum (Pd, Pt, Au, Ni, Cu)	Gold Fields (本社：Johannesburg)100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済性を評価中。</li> <li>・ 鉱物資源量(Gold Fields 年間報告書 2008)は、168.3 百万 t(品位 2PGE+Au 2.3g/t、12.6 百万 oz)。</li> </ul>
Hannukainen (Fe, Cu, Au)	Northland Resources (本社：Vancouver)100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2005 年に探鉱権を取得。初期生産(鉄鉱石 36.9 百万 t)は 2012/2013 年を目処としているが、2008 年 10 月に同プロジェクトの開発費の削減を検討すると発表。</li> <li>・ 1982～1988 年、鉄鉱石を生産。4.5 百万 t(品位 Fe 43%、Cu 0.88%、Au 1g/t)の鉱石が採掘された。</li> <li>・ 資源量(2007 年中期、NI43-101 規程)は、165 百万 t(品位 Fe 36%、Cu 0.11～0.25%、Au 0.04～0.12%)。</li> </ul>

表 4. 主な探鉱プロジェクト(2)

プロジェクト(鉱種)	権益所有企業 (権益：%)	備考
Kevitsa (Ni、Cu、Co、Au、 Pt、Pd)	First Quantum Minerals (本社：Vancouver)100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010年に生産開始を予定していたが、経済不況により鉱山建設を一時中断。</li> <li>2008年6月、Scandinavian Minerals(本社：Toronto)社を約282百万US\$で買収し、本プロジェクトを取得。</li> <li>プレFS調査結果の推定および確定鉱石埋蔵量は合計66.8百万t(品位Ni 0.30%、Cu 0.43%、Co 0.01%、Au 0.14g/t、Pd 0.2g/t、Pt 0.3g/t)</li> </ul>
Kylylahti (Co、Cu、Ni、Au、 Zn)	Vulcan Resources (本社：Perth)100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年8月、供給契約先が決まるまでは、探鉱開発を一時中断すると発表した。2008年4月、FS調査を完了し、2010年Q4からの5年間は、Cu 8,800t/年、Co 1,900t/年、Au 11,900oz/年、Ni 1,350t/年、3,800t/年の生産能力で、生産を開始する予定であった。</li> <li>2008年4月に発表したDFS(Definitive Feasibility Study)の結果によると、鉱物資源量は、7.85百万t(品位Cu 1.17%、Co 0.24%、Ni 0.22%、Zn 0.49%、Au 0.70g/t)</li> </ul>
Kuhmo (Ni、Cu、Co、Pt、 Pd)	Vulcan Resources (本社：Perth)95%、 Dragon Mining 傘下の Polar Mining Oy (本社：Finland)5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>2009年3月、同プロジェクトの休止を発表。但し、同月、環境影響調査(EIA)を一般コンサルテーションに提供した。</li> <li>Kuhmo JVは、豪州南部に類似したKuhmo-Suomussalmi Greenstone Belt(150km長：Kylylahtiプロジェクトより300km先)上の170km<sup>2</sup>の鉱区において2005年から探査が開始されている。鉱区内では、複数の大規模なニッケル・銅鉱化帯が発見され、現在の鉱物資源量は9.37百万t(品位：Ni 0.40%、Cu 0.06%、Co 0.012%である。</li> </ul>
Paukka-Janvaara(U)	Agricola Resources(英)100%	初期段階探鉱開発。2008年、更新データ無し。
Eno(U)	Areva(仏)100%	初期段階探鉱開発。2008年、更新データ無し。
Ranua(U)	Areva(仏)100%	初期段階探鉱開発。2008年、更新データ無し。
Stormi & Ekojoki (Ni、Cu)	Dragon Mining (本社：Perth)100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年、更新データ無し。</li> <li>資源量(2007年8月、JORC規程)は、2.7百万t(品位Ni 0.47%、Cu 0.35%)。1975-1995年の間で、Outokumpu社は合計7.5百万tの鉱石(品位Ni 0.68%、Cu 0.43%)を生産。</li> </ul>

(出典：フィンランド地質調査所、Mining Journal2009年2月発行「Finland」、MEG及び各社ホームページ)

## (3) 製錬所状況

表 5. Harjavalta 製錬所と Kokkola 製錬所の生産量

	生産鉱種	2007 年	2008 年	08/07 増減率 (%)	備考
Harjavalta 製錬所 (Boliden)	銅(1次:t)	118,911	142,154	19.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>2007 年に拡張工事が完了し、2008 年も前年比 20%増産。但し、銅価格の低迷により、営業利益は 64 百万 SEK と前年比 57%減。銅需要の減少により、2009 年 Q1 は Ronnskar 製錬所(本社: Sweden)と合わせて、約 17 千 t の減産予定。</li> </ul>
	カソード(t)	100,987	121,819	20.6	
	金(kg)	2,790	2,064	-26.0	
	銀(kg)	33,175	58,648	76.8	
	パラジウム 鉱石(kg)	461	214	-53.6	
Harjavalta 製錬所 (Norilsk Nickel)	ニッケル(t)	34,550	29,344	-15.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Norilsk は 2007 年 3 月、OM Group 社(米)所有の Harjavalta 製錬所を 4 億 9 百万 US\$ で買収。年産は Ni 60 千 t/年。</li> <li>Norilsk へ売却後、OM Group 社は Norilsk と 5 年間のコバルト(副産物)供給契約を締結。</li> </ul>
	銅(t)	5,807	4,230	-27.2	
Kokkola 製 錬所 (Boliden)	亜鉛(t)	305,543	297,722	-2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>亜鉛生産が欧州第 2 位、世界では第 5 位を誇る。</li> <li>2007 年は記録的量産となったが、2008 年の需要減により、一時減産。2009 年は、Odda 亜鉛製錬所(Norway)と合わせて約 6 万 t を減産予定。</li> <li>OM Group(米)が同製錬所の一部でコバルト地金を生産(生産量は不明)。コバルト含有の鉱石は、豪州、DRC コンゴ、ロシア、米国及びザンビアから輸入している。</li> </ul>
	銀(t)	45	33	-26.7	

(出典: Boliden Annual Report 2007、Norilsk Nickel の公式ホームページ)



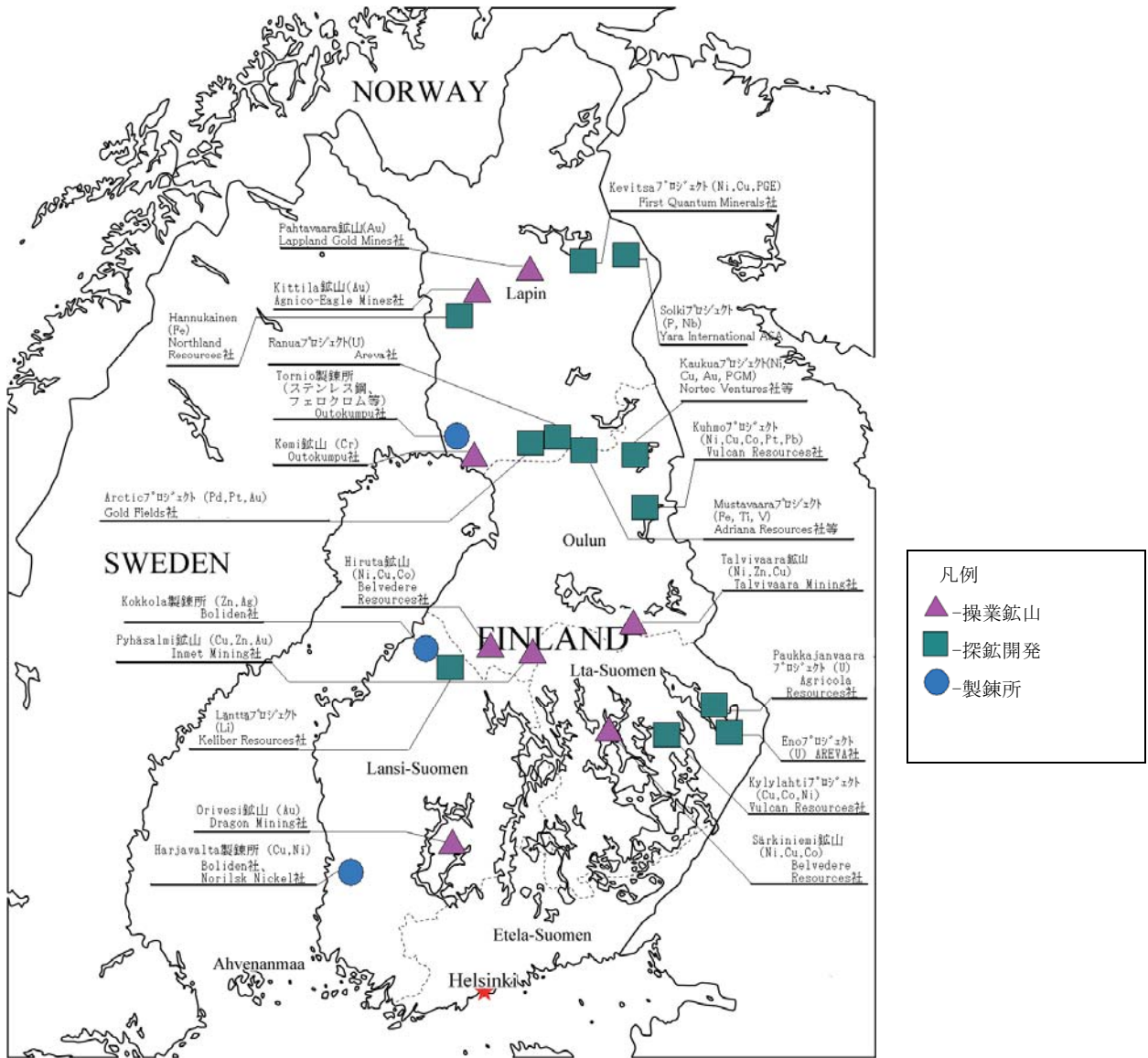


図1. フィンランドの主な稼動鉱山・探鉱案件・製錬所の位置図

5. 我が国との関係

表6. フィンランドから日本への主要非鉄金属輸入実績(2008年)

鉱種	輸入量(A)	世界輸入量(B)	A/B(%)	順位
コバルト地金(t)	4,938	14,210	34.75	1
酸化コバルト(t)	186	1,044	17.83	2
粗銅及びアノード(t)	1,079	29,492	3.66	4
ニッケル地金(t)	179	48,267	0.37	10

(出典：日本貿易月表 2008.12)

## 6. その他トピックス

外務省 HP によると、2008 年前半までは歳出削減努力により財政状況は健全であり、累積債務も改善していたが、2009 年より財政刺激策のため財政赤字にふれた。世界経済の悪化を受け、フィンランド経済も 2008 年に入って +0.92%まで激減。2009 年も、-5.2%の更な

る悪化が IMF より予測されている。なお、失業率は世界第 9 位(33 か国中、IMF 調べ)で、2008 年後半以降、Belvedere Resources、Boliden、Outokumpu 等から人員削減に関する発表が続いた。

(2009. 7. 31/ロンドン事務所 フレンチ香織)